

不安定な露地野菜経営から所得の向上と安定化を目指した多品目経営への転換

～八千代町の野菜認定農業者の経営実態調査～

管内は秋冬ハクサイを中心とした露地野菜経営が主流ですが、価格の低迷と労働過重が問題となっています。そこで、露地野菜産地の構造改革を目指し、施設化の推進、新規品目の導入により多品目経営体への転換に取り組み、収益性と安定性の高い経営体の育成を進めています。経営実態アンケート調査は、これまでの普及活動により、農業者の経営や意識がどう変化したかを把握するとともに、今後の普及活動をさらに発展させるためのものです。調査の結果、加工業務向け契約栽培や雇用する農家が増え、後継者の確保も進んでいることがわかりました。また、作付面積も拡大しており、多品目経営も定着しています。

表. 作付品目と農家数および平均面積

作付品目	農家数(戸)	平均面積(a)
秋冬ハクサイ	121	350
春キャベツ	107	110
春ハクサイ	98	190
秋冬キャベツ	95	210
ナス	61	50
春レタス	58	270
トウモロコシ	57	100
秋レタス	56	270
秋リーフレタス	44	60
春リーフレタス	43	50
加工トマト*	14	40
ショウガ*	11	30
ピーマン*	11	30

上位10品目を抜粋、*新品目の状況

安定した収益を目指し、経営改善セミナーを開催

八千代町にてセミナーを開催し、「所得の向上と安定化を目指した多品目経営への転換」に向けた普及活動やアンケート結果を報告しました。

ここでは、アンケート結果から適正な規模、雇用の最適化、契約取引の組み合わせ等により、安定した収益を確保する周年雇用型経営を提案しました。

新規品目の導入

多品目経営推進の一環としてショウガ、ピーマン、加工トマト、カリフラワー等新品目の導入を関係機関とともに推進してきました。これらの新品目は夏季の安定した収入を確保することと、雇用労働力の有効活用が高い効果があります。新品目については、実証ほ設置や栽培講習会の実施など、技術向上に向けた活動を積極的に行っています。

経営実態アンケート調査結果

対象：野菜の認定農業者186戸（回答率96%）、結果（H17調査値との比較）

1) 労働力・後継者の状況

- ・雇用をしている農家割合：74%→81%
- ・平均労働力(雇用含む)：4.8人→6.2人
- ・後継者がいる農家割合：23%→31%

2) 作付品目・面積の状況（表参照）

- ・平均作付品目数：4.6品目→5.8品目
- ・平均作付面積：580a→920a

3) 契約販売状況

- ・契約販売をしている農家数：112戸
- ・新たに契約販売をしたい農家数：40戸



八千代町認定農業者経営改善セミナー



ピーマンの栽培現地講習会